

## 巡 検 の 記 録

### 第 1 学 年

### 白 糸 滝 (浅井・浅海教官)

昭和42年9月6日～8日

#### 〔コース〕

一日目：東京—二子玉川—長津田—厚木—秦野—松田—山北—御殿場—下土狩—愛鷹麓—吉原—富士宮—白糸

二日目：静岡県育成試験場見学 白糸滝の滝壺内部の小気候観測・計算・図化

三日目：白糸—猪の頭—本栖—河口湖—猿橋—東京

#### 〔巡検の前〕

七月の初め、気候学の最後の講義の時間、私達は浅井先生から一枚の紙を手渡された。それには9月6日から行なわれる白糸滝巡検の概要と、事前研究題目が書かれてあった。これが私達の苦しみ(?)の始まりであった。武蔵野台地、多摩丘陵、相模野台地などの研究題目を15人が各々1つずつ受けもつことになった。

8月の中頃から、自分の受けもった題目を調べるために、1人又1人と研究室に顔を出しはじめた。しかし、研究室に来てからがまたたいへんであった。なにしろ地理科の学生として授業を受け始めてから約3ヶ月しかたっていないので、ある題目に関連した論文や本を探すのに苦労し、やっとその論文や本を探しだした後も、まだ地質学や地形学を学んでいないので、その論文や本の意味することがわからないことも多くあり、ただ抜き書きするという風であった。又、自分の受けもった題目はある程度理解できても、他の題目についての理解はほとんど白紙に近い状態であった。そして私達はあまり釈然としない顔で巡検に出発した。

#### 〔巡検中〕

9月6日7時30分、準備万端とはいかなかったが、大学前出発。正門を出てもなく浅井先生のお声がマイクから流れる。「これから車中で講義しながらまいります。」以後、我々の3日間の巡検旅行は、このお言葉に察せられるごとく、厳しいものとなった。

二子玉川から長津田、溝口を経て、厚木、秦野へと。その間、事前研究題目の武蔵野台地、多摩

丘陵などの説明がひきもきらず。騒音と揺れのために説明は聞こえず、メモもできず、そろそろまぶたも重くなってくる。田子浦港へ寄り、浅間神社へ向かう。富士の湧水で養鱒が行なわれている。その後、白糸の旅館へ。珍しい虹ますの夕食後、疲れたと思ったところ、さあ講義をいたしましよというお言葉にげんなり。11時就寝。

二日目8時30分、静岡県育成試験場へ。牧場とはいふものの、牛があまり見られず残念。午後から、いよいよ白糸の滝気候観測。レインコートとビニールサンダルという姿で観測地へ。滝のしぶきにぬれながら、観光者の物珍しそうな質問をあびながら。しかし、巡検中では比較的楽しいものであった。夕食後は再び観測の集計と講義。

三日目早朝、滝の空気の流れの観測。その後、旅館を出発、猪の頭の養鱒場へ向かう。どこを見ても鱒ばかり。ここで鱒料理でも食べられたら、などと思ったことでした。そこから一路東へ、富士五湖へ向かう。紅葉台展望台へ登り、青木ヶ原の樹海を見る。また天然記念物の富岳風穴、鳴沢氷穴を見る。ここは全く天然の冷蔵庫であった。そこから、猿橋熔岩を見学して、上野原、相模湖を経て、東京へ。6時30分無事大学着。ただ富士のすぐ足元まで行ったのに、富士にふられ通し、一度もながめられないのは残念であった。

#### 〔巡検の後〕

夏休み明けと共に、私達は巡検レポートと定期試験の勉強に、日夜追われた。夜中の3、4時までかかってレポートに取り組み、語学の予習もできず提出期限にも遅れ、全く焦燥の日々であった。先生からは、新たに勉強して得た知識を基に、レポートを書くようにという事であったが、時間も能力も限られており、結局、巡検に出かける前に調べておいたレポートを、お互に貸し借りして写し並べるといふ風になってしまった。しかし皆それぞれ個性は出ていたようである。長さは百枚前後であった。

私達がレポートについて反省している点は、何も自分自身で発見する事なく、またよく理解できないのに、ただ漫然と機械的に書き写すのに終始したことである。時間が少なかつたせいがあるが、1人1人が項目を選ぶなり、テーマをしぼった方がよいレポートが書けたのではないかと思う。

(2年生)